



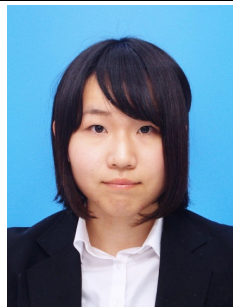
きほう かりん

以下の項目について記入してください。

・HAKUHODO・




Hakuhodo DY  
media partners

ふりがな	きほう かりん	生年月日(西暦)	性別	
氏 名	木方 夏麟	1996年 06月 16日	女	
ふりがな 現住所	〒 305-0034 茨城県 つくば市 小野崎 1 4 3 0 - 2 tel.			
ふりがな 連絡先(現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)	〒 305-0034 茨城県 つくば市 小野崎 1 4 3 0 - 2 tel. 080-2349-4719			
携帯電話	080-2349-4719			
e-mail	tokikake.k16@gmail.com			

学歴・高校以降	入学年月	卒業年月	学校名・学部・学科	状況
	2012年 04月	2015年 03月	茨城県立土浦第一高校 ー 普通科	卒業
	2015年 04月	2019年 03月	東京大学 工学部 システム創成学科Cコース	卒業
	2019年 04月	2021年 03月	東京大学大学院 学際情報学府 学際情報学府専攻先端表現情報学コース	修了見込

ゼミ・研究室等、学業の内容	特技・趣味等
「周囲の色彩に応じたポスターデザインをするためのモバイルARツール」と題して掲示板のようなポスターが複数並んでいる環境での他のポスターの色情報をもとにしたデザインの修正に取り組んでおり、UnityでのARアプリ開発およびAR上の色再現のための画像補正、視線計測を用いた被験者実験の準備を進めています。	デザイン、ランニング、旅行、マンガ。 デザイン：大学1年次にサークルで始めたエディトリアルデザイン以降、色々な分野のデザインの勉強をしたり展示を見たり絵を描いたり映像を作ってみたりといったことが好きで長期休みなどによく挑戦しています。 ランニング：昨年の1月から続けています。20代のうちにフルマラソンに出たい。 旅行：行くのもその国の文化について調べるのも好きです。アイスランドに行きたい。
クラブ・サークル活動	資格等
テニス(トマト)とフリーペーパー(biscUiT)の2つのサークルで活動していました。トマトでは団体戦に3回参加し、マネージャーという合宿を運営する役職でした。biscUiTでは主に編集とデザインを務め、執行代ではデザインチーフとして5 - 8人ほどのデザインチームを取りまとめました。	普通自動車第一種運転免許 日本漢字能力検定2級 文部科学省後援 色彩検定2級
語学力	
TOEIC / TOEFL (英語)	その他外国語
860 点 / 68 点	

博報堂/博報堂DYメディアパートナーズの志望順位を記入してください。

志望順位	1	・HAKUHODO・	志望順位	2	 Hakuhodo DY media partners
------	---	------------	------	---	--

学生時代に頑張ったこと／チャレンジしたことを、具体的なエピソードを交えて説明してください。

学生時代に頑張ったこと／チャレンジしたこと

長年の「なんとなくやりたいイケメン企画」を同期で協力して実現

具体的説明

フリーペーパーサークルで「イケメン東大男子」だけを集めた特別号を発行したことです。普段は東大女子にフォーカスを当てることがウリの雑誌ですが、あえて男子を取り上げたら絶対面白いだろうと先輩の代から話題には上がっていました。しかし、誌面や作業量の問題からなかなか実行されることはなく、なんとかやりたいと考えた私は誌面に関しては既存媒体と完全に分けた「別冊」とすることで、作業に関しては自分は進捗管理とデザインに徹し、取材・執筆に関しては各部員に任せることでできると考え、臨時編集長として中心となって企画を進めました。有名なOBに取材したいという話も上がっていたので榊太一さんにダメ元で取材交渉をしてみたところ、見事取材OKがでて実際に巻頭でインタビュー記事を書けることができました。20ページほぼ全てのデザインを担当したので大変でしたが、みんなのモチベーションを保ちつつ楽しく制作できたよい経験です。

あなたが博報堂／博報堂DYメディアパートナーズでチャレンジしたいことを教えてください。

(1枚目で記入した博報堂／博報堂DYメディアパートナーズの志望順位に基づき記入してください。)

博報堂／博報堂DYメディアパートナーズでチャレンジしたいこと

人が日常をもっと面白がって生活するための仕組みやコンテンツを作りたいです。技術が発達してエンターテインメントの可能性が広がってもそれを技術リテラシーのない人や地方まで多くの人に平等に届けるためには広告会社が持つような幅広い企業と協力して企画を実行する力が必要だと考えています。東京の大学に進学して強く感じたことですが、都会と地方ではアートやテクノロジーに関する情報格差がとても大きく、都内で体験型施設があっても都内近郊の人しか体験できないということは当たり前のようですごく不公平なことでしょう。AR/VR技術はテレビや書籍のような誰でも使えて楽しめるメディアとなるにはまだまだ足りません。Ingress等の位置情報や地元のコンテンツを生かしたコンテンツは解決策の一つだと思いますが、私はこれをもっと発展させて人が普段の生活の中に刺激や喜びを感じる機会を少しでも増やすことに貢献したいです。

あなたは一言で言うとどんなひとですか？

その理由について3つキーワードを挙げ、それぞれ100文字以内であなたの経験を交えながら具体的に説明してください。

私は、

ピンチを楽しむクリエイター

です。

キーワード

A. 受験直前！腹いせスーパーセーラームーン

B. 入学後、1/36は流石に笑うしかなかった

C. 発散大好き、数で乗り切るアイデアウーマン

A	キーワード	受験直前！腹いせスーパーセーラームーン
	具体的説明	高3の体育祭ではリレーメンバーが仮装をする風習があり、受験でみんなモチベーションが低かったのですが、衣装を提案すると女子が食いついてくれて土日や放課後に皆で製作。当日はめちゃくちゃ盛り上がりました。
B	キーワード	入学後、1/36は流石に笑うしかなかった
	具体的説明	大学のクラスは理系で自分以外の35人は全員男子。「まじかよ」と思いましたがコミュニケーション力をつけるチャンスだと頑張って話しかけたり名前を覚えたりと努力しました。今でも結構仲が良いです。
C	キーワード	発散大好き、数で乗り切るアイデアウーマン
	具体的説明	プログラミングに苦手意識を持ったまま望んだ大手メーカーのアプリ開発インターン。一週目で方針を3つ固めてプレゼンし、社員の方に発想力と提案力を褒めていただきました。実装も無事間に合い嬉しかったです。